

二色の浜海岸地域における持続的な生態系の保全と 里海ネットワーク構築事業 貝塚里海づくり未来協議会

事業概要

「博学官民」連携による令和の里海づくりへの取り組み

- 地域連携による持続可能な活動基盤を構築
- ◇ 大阪湾北限のアマモ場の保全・再生・利用
- 市民をはじめ次世代への普及啓発活動

貝塚市は大都市圏にあるものの「森・里・川・海」があり、市域内で水資源循環が俯瞰できる全国でも稀な地域である。その地域特性を活かした里海づくりを進めていく。

二色の浜海岸地域における持続的な生態系の保全と里海ネットワーク構築事業



今年度取り組み内容

- 二色の浜の活性化に向け、国際認証ブルーフラッグを取得した二色の浜公園指定管理者との協議や、民間企業へのヒアリング ほか
- ◇ 試験研究機関である大阪府立環境農林水産総合研究所水産センターからの指導や助言をはじめ、貝塚市立自然遊学館の調査結果などを活用し、2025大阪・関西万博会場で貝塚の里海について発信 ほか
- 次代を担う小中学生に、市立自然遊学館が中心となり、二色の浜などでの自然観察会を開催し、多様な姿、生き物の命の大切さを学ぶ海洋教育を実施した。また、地元の少年団が大阪関西万博で里海活動について発表 ほか



今年度成果



- 持続可能な取り組みには市民をはじめ民間企業等との連携が必要となる。それら多様な主体が、貝塚里海づくりに理解、関心をもっていただける機会となった。
- ◇ アマモの種を採取、アマモの苗を来春に植える準備ができた。また、アマモ場での観察会を実施して、チヌやアミメハギ等の幼魚が採取され、アマモ場が多くの魚の住処になっていることが確認できた。さらには、研究機関の協力でアマモ分布域の過去データなどが把握できた。万博会場ではオランダ館での特別展示やギャラリーWESTでの環境省主催展示でも貝塚の里海を紹介することができ、多くの人に注目された。大阪・関西万博では、世界で藻場が重要視されていることを実感できた。
- 地球温暖化やマイクロプラスチックの問題など地球環境問題が海の生き物にどのような影響を与えているのかを発信することにより、市民が里海に関心を示すとともに、大阪府からの支援協力を得られることになった。

次年度以降の目指す方向性



- 二色の浜公園指定管理者をはじめ民間企業など多様な主体が参画し、二色の浜里海づくりに資する観光ビジネス展開などを旨とする。
 - ◇ 湾全体をモニタリング、また市民参加によるアマモ場の保全再生や生物調査とともに里海活動を活性化する好循環を構築する。
 - 自然観察会などにより地元の小中学生をはじめ二色の浜を守り育てていく次世代の人材を育成していく。
- その他、第45回全国豊かな海づくり大会へも協力して貝塚里海づくりに理解や関心をもっていただけるよう取り組んでいく。

問い合わせ先

貝塚里海づくり未来協議会 担当: 桑原、土井
メール: kaizuka.satoumi.mirai@gmail.com